

令和5年度

# 学校関係者評価委員会

(兼 学校評議員会)



日時 令和6年2月1日(木) 14時30分～  
場所 松山市立西中学校 校長室

# 学校関係者評価委員会

- 1 日 時 令和6年2月1日(木)  
13時35分～ 記念集会の自由参観 ※お時間が許す方は、御参観ください。  
14時30分～ 評価委員会

- 2 場 所 松山市立西中学校 校長室

## 3 目 的

- 西中学校の教育目標である「自ら鍛え、共によりよく生きる生徒の育成」の実現に向けて、自己評価の結果を踏まえた分析及び改善方策について検討し、その結果を公表・説明することにより、学校、家庭、地域の連携・協力による学校づくりを推進する。

## 4 内 容

- (1) 開会あいさつ 校長

- (2) 学校評議員 自己紹介

- |            |               |             |
|------------|---------------|-------------|
| ○ 戒能 潤之介 様 | 元PTA会長        | 愛媛県議会議員     |
| ○ 角田 敏郎 様  | 元PTA会長        | 松山市議会議員     |
| ○ 田中 務 様   | 元校長           | 生石公民館長      |
| ○ 替地 和人 様  | 元校長           | 松山市教育会生石支部長 |
| ○ 福岡 知子 様  | 元松山市青少年育成支援委員 |             |
| ○ 向井 かおり 様 | 主任児童委員        |             |
| ○ 濱崎 俊広 様  | PTA会長         |             |

- (3) 学校出席者 自己紹介

- |          |       |
|----------|-------|
| ○ 校 長    | 上林 正佳 |
| ○ 教 頭    | 綿田 隆  |
| ○ 主幹教諭   | 山本 泰久 |
| ○ 生徒指導主事 | 竹内 強  |

- (4) 考察と課題、改善策の説明

- (5) 意見交換、情報交換

- (6) 閉会あいさつ 校長

## 5 学校関係者評価委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、学校教育法第42条の規定に基づき、松山市立西中学校の学校関係者評価委員会に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 自己評価の結果を踏まえて分析及び改善方策等について検討し、その結果を公表する。

(事務局)

第3条 本委員会の事務局は西中学校に置き、庶務は教頭が行う。

(組織)

第4条 本委員会は、一 学校評議員、二 西中学校教職員をもって組織する。

(任期)

第5条 委員の任期は5月中旬～翌年度4月30日の1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 本委員会に委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により選出する。

3 委員長は、本委員会を総理する。

(運営)

第7条 本委員会は、校長が招集する。

2 本委員会は、必要に応じて関係者を求め、その意見を聴くことができる。

(会計)

第8条 本委員会の運営にかかる費用は、後援会会計から充てる。

2 本委員会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

## 6 令和5年度 アンケート (12月に実施)

< 判定基準 > 4、3、2、1での評価の平均により次の判定とする。

平均3.0以上・・・・・・・・・・A

平均2.5以上3.0未満・・・・・・・・B

平均2.5未満・・・・・・・・・・C

生徒アンケート 思わない ← 1 2 3 4 → 思う の4択

- ① あなたの学年・学級は楽しいですか。
  - ② あなたは、授業に真剣に取り組んでいますか。
  - ③ あなたは、家庭学習に進んで向かう習慣が身に付いていますか。
  - ④ あなたは、読書に進んで向かう習慣が身に付いていますか。
  - ⑤ あなたは、無言で一所懸命に清掃に取り組んでいますか。
  - ⑥ 西中は、生徒会活動や集会活動など生徒が主体的に行う活動が充実していると思いますか。
  - ⑦ あなたは、学校行事に進んで参加し、自分の役割を果たすことや仲間と協力することができますか。
  - ⑧ あなたは、道徳の時間やその他の学校生活の場面で「人間としてよりよく生きていく力」を身に付け、高めていくことができていると思いますか。
  - ⑨ 西中は、部活動が盛んだと思いますか。
- 1 西中の先生たちは、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業をしていると思いますか。
  - 2 西中の先生たちは、教科等の指導においてタブレットの活用等、効果的にICTを活用していると思いますか。
  - 3 西中の先生たちは、差別やいじめをなくすような指導をしてくれていると思いますか。
  - 4 あなたは、「西中いじめ根絶宣言」を意識し、実践できていると思いますか。
  - 5 西中の先生たちは、いけないことはいけないと指導していると思いますか。

- 6 あなたは、挨拶ができるなど礼儀正しい生活が送れていると思いますか。
- 7 あなたは、「幸せな学校生活にするために気をつけよう」など、集団生活における決まりを守って生活できていますか。
- 8 西中は、将来に夢を持ち、自分の進路や生き方について考えるための授業や指導をしていると思いますか。
- 9 西中は、避難訓練や登下校指導などをきちんと行い、生徒の安全によく気を付けていると思いますか。
- 10 西中は、健康観察や保健に関する指導をきちんと行っていると思いますか。
- 11 あなたは、「換気の確保」や「手洗いなどの手指衛生」など、状況に応じた感染症対策を適切に行っていますか。
- 12 西中の先生たちは、困っていることや悩みなどがあると、相談にのってくれたり、適切なアドバイスをしてくれたりしていると思いますか。

|  |
|--|
| <b>保護者アンケート</b> <u>思わない</u> ← 1   2   3   4 → <u>思う</u> と<br><span style="display: block; text-align: right;">よくわからない   の5択</span> |
|--|

- 1 西中は、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っていると思いますか。
- 2 西中は、教科等の指導においてタブレットの活用等、効果的にICTを活用していると思いますか。
- 3 西中は、生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っていると思いますか。
- 4 西中は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てていると思いますか。
- 5 西中は、学校の決まりなど生徒指導体制の見直しを行い、生徒の実態に応じた適切な指導を行っていると思いますか。
- 6 西中は、将来に夢を持ち、自分の進路や生き方について考える生徒を育てていると思いますか。
- 7 西中は、生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めていると思いますか。
- 8 西中は、一人一人の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、生徒の健康保持・増進に努めていると思いますか。
- 9 西中は、「換気の確保」や「手洗いなどの手指衛生」など、状況に応じた感染症対策を適切に行っていると思いますか。 ※ 昨年と変更
- 10 西中は、特別支援教育の視点を持って取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っていると思いますか。
- 11 西中は、管理職や学年主任等を中心として組織な対応を行っていると思いますか。
- 12 西中は、生徒たち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のための努力をしていると思いますか。
- 13 西中は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力していると思いますか。
- 14 西中は、学校・学年だよりやホームページ、メール等により、積極的に情報を発信していると思いますか。

- 15 西中は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めていると思いますか。
- 16 西中は、中1ギャップの解消につなげるために小学校と連携し、生徒の学校生活に対する不安感の軽減に努めていると思いますか。
- 17 西中は、教育の質の向上のために小学校と連携し、小中間の系統性を重視した学習指導に努めていると思いますか。
- 18 西中は、小学校と連携し、生徒に対する教職員の理解や、生徒の相互理解の促進に努めていると思いますか。

**教職員自己評価アンケート** 思わない ← 1 2 3 4 → 思う の4択

- 1 あなたは、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っていますか。
- 2 あなたは、教科等の指導においてタブレットの活用等、効果的に ICT を活用していますか。
- 3 あなたは、生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っていますか。
- 4 あなたは、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てていますか。
- 5 西中は、学校の決まりなど生徒指導体制の見直しを行い、生徒の実態に応じた適切な指導を行っていますか。
- 6 あなたは、将来に夢を持ち、自分の進路や生き方について考える生徒を育てていますか。
- 7 あなたは、生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めていますか。
- 8 あなたは、一人一人の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、生徒の健康保持・増進に努めていますか。
- 9 あなたは、「換気の確保」や「手洗いなどの手指衛生」など、状況に応じた感染症対策を適切に行っていますか。
- 10 あなたは、特別支援教育の視点を持って取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っていますか。
- 11 西中は、管理職や学年主任等を中心として組織的な対応を行っていますか。
- 12 あなたは、生徒たち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のため、積極的に研修に取り組んでいますか。
- 13 西中は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力していますか。
- 14 西中は、学校・学年だよりやホームページ、メール等により、積極的に情報を発信していますか。
- 15 あなたは、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めていますか。
- 16 西中は、中1ギャップの解消につなげるために小学校と連携し、生徒の学校生活に対する不安感の軽減に努めていますか。
- 17 西中は、教育の質の向上のために小学校と連携し、小中間の系統性を重視した学習指導に努めていますか。
- 18 西中は、小学校と連携し、生徒に対する教職員の理解や、生徒の相互理解の促進に努めていますか。

|                     |                    |                      |          |
|---------------------|--------------------|----------------------|----------|
| 令和5年度 教育計画 松山市立西中学校 |                    |                      | 学校番号 21  |
| 校長名 上林 正佳           | 学級数 18<br>(内特別支援2) | 生徒数 572<br>(内特別支援12) | 教職員数 計34 |

【教育目標】

自らを鍛え、共によりよく生きる生徒の育成

礼節 克己 創意 躍動 連帯

学力・体力の向上

満足感

自己肯定感の醸成

成就感

道徳心の高揚

響合感

「幸せ」な学校をつくろう！

学校

【教育の基盤】

信頼感

期待感

家庭

【生活の基盤】

地域

【社会の基盤】

安心感

学校・家庭・地域の連携

## 令和5年度 生徒のみへのアンケート結果

※ 判定基準【A:3.0以上 B:2.5以上3.0未満 C:2.5未満】

|                                |     |     |     |     |     |   |
|--------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|---|
| ①あなたの学年・学級は楽しいですか。             | 70% | 22% | 5%  | 3%  | 3.6 | A |
| ②あなたは、授業に真剣に取り組んでいますか。         | 59% | 37% | 4%  | 1%  | 3.5 | A |
| ③あなたは、家庭学習に進んで向かう習慣が身に付いていますか。 | 24% | 52% | 21% | 4%  | 3.0 | A |
| ④あなたは、読書に進んで向かう習慣が身に付いていますか。   | 39% | 29% | 21% | 11% | 3.0 | A |
| ⑤あなたは、無言で一所懸命に清掃に取り組んでいますか。    | 47% | 41% | 11% | 2%  | 3.3 | A |

|   |     |     |    |    |     |   |
|---|-----|-----|----|----|-----|---|
| ⑥西中は、生徒会活動や集会活動など生徒が主体的に行う活動が充実していると思いますか。                    | 63% | 34% | 3% | 0% | 3.6 | A |
| ⑦あなたは、学校行事に進んで参加し、自分の役割を果たすことや仲間と協力することができますか。                | 61% | 33% | 5% | 1% | 3.5 | A |
| ⑧あなたは、道徳の時間やその他の学校生活の場面で「人間としてよりよく生きていく力」を身に付け、高めていくことができますか。 | 60% | 36% | 3% | 2% | 3.5 | A |
| ⑨西中は、部活動が盛んだと思いますか。   | 70% | 24% | 5% | 1% | 3.6 | A |

# 令和5年度 評価アンケート集計と考察

※ 判定基準 【A:3.0以上 B:2.5以上3.0未満 C:2.5未満】

| 番号 | 評価領域      | 評価指標                          | 対象  | 評価  |     |    |    |     | 判定  | 総合判定 | 考察と課題   | 改善策の案  |   |  |
|----|-----------|-------------------------------|-----|-----|-----|----|----|-----|-----|------|---|--|---|--|
|    |           |                               |     | 4   | 3   | 2  | 1  | 不明  |     |      |   |  | 平均  |  |
| 1  | 教育課程・学習指導 | 一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業の実践。 | 生徒  | 43% | 48% | 8% | 1% |     | 3.3 | A    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・松山市の授業モデルを取り入れた授業展開や「学習の流れ」により、生徒自身が学習の見える化ができています。</li> <li>・統計教育の指定校として来年度7月まで実施する「未来学」では異学年集団での探究活動を行うことを通して、共に学ぶ楽しさを実感させることができた。</li> <li>・今年度の学校図書館の個人貸出は、前年度の2.2倍に増加。一方、意識調査を考え合わせると読書する人としらない人の二極化だと推察する。全校体制での読書習慣定着への取組が必要。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の流れを提示することを今後も継続する。</li> <li>・HPや西中だよりは行事の紹介が中心だが、今後、各教科での授業の取組についても紹介するよう努める。</li> <li>・読書習慣を定着させるために、①年度当初の全クラスでの図書館オリエンテーションの実施。②授業で図書館を使う機会を増やす。③教員による読書への誘い。④みきゃん通帳等による読書の振り返り。⑤朝読書の時間の充実。また、主体的な学習を支援するための拠点として、教科担当と連携して学習資料の充実提供に努める。</li> </ul> |   |  |
|    |           |                               | 保護者 | 25% | 54% | 8% | 1% | 12% | 3.2 | A    |   |  |   |  |
|    |           |                               | 教職員 | 29% | 59% | 9% | 3% |     | 3.1 | A    |   |  |   |  |
|    |           | タブレットの活用等、効果的なICTの活用。         | 生徒  | 53% | 38% | 8% | 1% |     | 3.4 | A    |   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノートを使った授業やEILSを使った定期テストの実施、朝学習の時間を使ったEILSでの学習など多くの場面でタブレットを効果的に活用することができた。そのため、生徒と保護者、教職員の評価は、比較的良好である。一方、ICTの効果的な活用に対して約1割の教職員が否定的な回答である。ICTの利用について活用できていない教員もいる。</li> <li>・保護者の回答はやや低い。家庭でタブレットで学習する姿を見かけないためではないかと考える。家庭学習でも活用させることが必要である。</li> <li>・タブレット内で不要なアプリをインストールしたりゲームを入れたりしている生徒がいる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用について、教職員間での情報交換や定期的な校内ICT研修を充実させる。また、ICT講習や研修などに積極的に参加し、今の使い方に満足することなく、新しい方法や使い方を取り入れる研鑽を重ねる。</li> <li>・今後もエイリスでのテストを継続する。</li> <li>・今後もロイロノートで「新しい授業」を追加することで全校や学年での生徒への連絡に活用する。</li> <li>・ロイロやEILSなどを活用した、家庭学習の長期休業中の課題を考える。</li> <li>・情報モラルを身に付けさせていくための指導を定期的に行う。</li> </ul> |
|    |           |                               | 保護者 | 42% | 43% | 6% | 2% | 7%  | 3.3 | A    |   |  |   |  |
|    |           |                               | 教職員 | 50% | 41% | 6% | 3% |     | 3.4 | A    |   |  |   |  |

# 令和5年度 評価アンケート集計と考察

※ 判定基準 【A:3.0以上 B:2.5以上3.0未満 C:2.5未満】

| 番号  | 評価領域         | 評価指標                                  | 対象                                 | 評価  |     |     |    |     | 判定  | 総合判定 | 考察と課題 | 改善策の案  |   |   |   |  |   |
|-----|--------------|---------------------------------------|------------------------------------|-----|-----|-----|----|-----|-----|------|-------|--|---|---|---|--|---|
|     |              |                                       |                                    | 4   | 3   | 2   | 1  | 不明  |     |      |       |  | 平均  |   |   |  |   |
| 2   |              | 生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向けての計画的な指導の実践。 | 保護者                                | 27% | 57% | 10% | 1% | 6%  | 3.2 | A    | A     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・EILSやeライブラリを活用することで、生徒の習熟度に合ったドリルや練習問題に取り組みさせることができた。また、教科担当や学力向上担当から、生徒の現状を把握した上での対策提案により生徒の学力向上に努めた。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に低学力の生徒に対して学習意欲を持たせるための課題の工夫や授業の改善をしていく。</li> </ul>                              |   |   |  |   |
|     |              |                                       | 教職員                                | 44% | 47% | 6%  | 3% |     | 3.3 | A    |       |  |   |   |   |  |   |
|     | 人権・同和教育、生徒指導 | 差別やいじめをなくす指導。                         | 生徒                                 | 63% | 29% | 7%  | 1% |     | 3.5 | A    | A     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・8割以上の保護者、生徒、教職員が肯定的な評価をしている。一方で保護者の評価がやや低い。</li> <li>・全教育活動を通じて道徳教育を行い、いじめや差別を許さない生徒を育てている。ただ、道徳の授業で「公正・公平」を扱うのは1・3年では人権・同和教育参観日の授業での1回、2年生は2回。こうした中で、生徒会主催による人権集会を5回行ったことは、効果的だった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人権・同和教育の視点に立った指導」について、HP等で発信して啓発に努める。また、教職員が自己研修ができるように、研修資料等の共有を進める。</li> </ul> |   |   |  |   |
|     |              |                                       | 「西中いじめ根絶宣言」への意識と実践。                | 生徒  | 59% | 36% | 3% | 2%  |     | 3.5  |       |  |   | A |   |  |   |
|     |              | 人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度の育成。    | 保護者                                | 34% | 49% | 8%  | 2% | 7%  | 3.3 | A    |       |  |   |   |   |  |   |
|     |              |                                       | 教職員                                | 71% | 26% | 3%  | 0% |     | 3.7 | A    |       |  |   |   |   |  |   |
|     |              | いけないことはいけないう指導。                       | 生徒                                 | 70% | 24% | 3%  | 3% |     | 3.6 | A    |       |  |   | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣や決まりを守るなどの意識は生徒に育ってきている。ただ、挨拶や集団の中での正しい行動の実践には、十分につなげていない。</li> <li>・生徒指導体制（縦と横の連携）の構築と保護者への啓発が課題である。</li> <li>・道徳科の授業を毎週火曜日の4時間目に全校体制で行い、道徳的価値について、生徒自身に自分事として考えさせることができた。それを実際の生活に生かしていくためには教師側の指導とともに生徒集団の自治力を高めることが不可欠である。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会や各委員会とタイアップして生徒主体の取組を行い、生徒の意識の高揚や実践能力の向上に努める。</li> <li>・生徒の規範意識の向上のために、生活の基本の4本柱といった啓発活動や掲示を生徒会執行部や学級委員長会が行い、自治力を高めていくことを検討する。</li> <li>・保護者に向けての啓発の機会を増やしていく。</li> </ul> |   |
|     |              |                                       | 挨拶など礼儀正しい生活の実践。                    | 生徒  | 59% | 38% | 2% | 1%  |     | 3.5  |       |  |   |   |   |  | A |
|     |              |                                       | 集団生活における決まりを守っての生活の実践。             | 生徒  | 65% | 31% | 3% | 1%  |     | 3.6  |       |  |   |   |   |  | A |
|     |              |                                       | 学校の決まりなど生徒指導体制の見直しや生徒の実態に応じた適切な指導。 | 保護者 | 43% | 42% | 7% | 2%  | 6%  | 3.3  |       |  |   |   |   |  | A |
| 教職員 | 62%          |                                       |                                    | 35% | 3%  | 0%  |    | 3.6 | A   |      |       |  |   |   |   |  |   |

## 令和5年度 評価アンケート集計と考察

※ 判定基準 【A:3.0以上 B:2.5以上3.0未満 C:2.5未満】

| 番号 | 評価領域   | 評価指標                                | 対象  | 評価  |     |    |    |    | 判定  | 総合判定 | 考察と課題 | 改善策の案   |   |
|----|--------|-------------------------------------|-----|-----|-----|----|----|----|-----|------|-------|---|---|
|    |        |                                     |     | 4   | 3   | 2  | 1  | 不明 |     |      |       |   | 平均  |
| 3  | キャリア教育 | 将来に夢を持ち、自分の進路や生き方について考えるための授業や指導。   | 生徒  | 55% | 39% | 5% | 1% |    | 3.5 | A    | A     | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・教職員については、学活で3年間を見通した進路学習や、各学年で総合的な学習の時間に実施した校外学習や職場体験学習、出前授業の実践が高評価に繋がったと感じる。保護者の評価が生徒・教職員よりも低評価となったのは、学校での取組内容が保護者には伝わっていないからだと推察する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学活で学んだ内容について、親子で話をするよう各学担が促したり、学級通信を通して情報発信する機会を増やしたりすることを検討する。</li> </ul>                         |
|    |        |                                     | 保護者 | 26% | 57% | 9% | 1% | 8% | 3.2 | A    |       |   |   |
|    |        |                                     | 教職員 | 47% | 50% | 3% | 0% |    | 3.4 | A    |       |   |   |
| 4  | 安全管理   | 交通安全やけが等の防止への適切な指導。安全な環境づくりへの努力。    | 生徒  | 69% | 26% | 4% | 1% |    | 3.6 | A    | A     | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒、教職員の9割以上、保護者の8割以上が肯定的な回答をしている。一方で、保護者の回答がやや低いのは、学校が、どのような取り組みをしているのかが見えていないためだと考える。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全についての情報発信をホームページなどを活用して実施する。</li> </ul>  |
|    |        |                                     | 保護者 | 33% | 53% | 6% | 2% | 6% | 3.3 | A    |       |   |   |
|    |        |                                     | 教職員 | 76% | 21% | 3% | 0% |    | 3.7 | A    |       |   |   |
| 5  | 保健管理   | 一人一人の健康状態を確認。環境衛生の維持・改善。生徒の健康保持・増進。 | 生徒  | 56% | 37% | 6% | 1% |    | 3.5 | A    | A     | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境衛生や健康に関する意識は、全体的に高い。特に教職員の意識は高い。ただ、保護者は1割が低評価となっている。新型コロナウイルス感染症が5類へ移行になり、感染症対策への意識も変化がみられるためと考える。</li> <li>「早寝早起き朝ごはん」といった基本的な生活習慣が身に付いていない生徒もいる。家庭での生活習慣に関して、保護者と学校が連携し、改善していくことが重要である。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>保健だよりや保健委員会の生徒による呼びかけなど、健康の保持増進について繰り返し啓発をしていく。</li> <li>保健室来室者については、健康相談等を通じて個別に指導を行う。</li> </ul> |
|    |        |                                     | 保護者 | 35% | 50% | 9% | 2% | 4% | 3.2 | A    |       |   |   |
|    |        |                                     | 教職員 | 74% | 26% | 0% | 0% |    | 3.7 | A    |       |   |   |

# 令和5年度 評価アンケート集計と考察

※ 判定基準 【A:3.0以上 B:2.5以上3.0未満 C:2.5未満】

| 番号 | 評価領域   | 評価指標                                | 対象  | 評価  |     |    |    |     | 判定  | 総合判定 | 考察と課題 | 改善策の案  |  |
|----|--------|-------------------------------------|-----|-----|-----|----|----|-----|-----|------|-------|--|--|
|    |        |                                     |     | 4   | 3   | 2  | 1  | 不明  |     |      |       |  | 平均   |
|    | 管理     | 「換気の確保」や「手洗いなどの手指衛生」など、状況に応じた感染症対策。 | 生徒  | 58% | 38% | 4% | 1% |     | 3.5 | A    | A     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・換気の確保や手洗いなど、全体的にきちんとできているようである。保健委員会の活動の一環として、ハンカチティッシュなどのチェックを実施したり、手洗いなどの呼びかけを行うことで生徒自身の意識も高いようである。</li> <li>・季節が冬に移行するにつれて石けんを使った手洗いが減っている。新型コロナウイルスに限らずインフルエンザや溶連菌感染症など様々な感染症が流行しており、今後も換気や手洗いなど感染症対策に取り組む必要がある。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・寒くなる季節ではあるが、教室の対角線上の窓は開け、常時換気を図る。授業ごとに保健委員や委員長の呼びかけで窓を開け換気をするなどの活動を充実させる。</li> <li>・保健日より等でも換気や手洗いの効果について、繰り返し啓発する。</li> </ul> |
|    |        |                                     | 保護者 | 43% | 39% | 6% | 3% | 9%  | 3.3 | A    |       |  |  |
|    |        |                                     | 教職員 | 76% | 21% | 3% | 0% |     | 3.7 | A    |       |  |  |
| 6  | 特別支援教育 | 特別支援教育の視点を持って取組と個に応じた配慮や指導の適切な実践。   | 生徒  | 59% | 32% | 8% | 2% |     | 3.5 | A    | A     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、教職員の回答が比較的良好である。一方、保護者の回答がやや低い。特別支援の活動内容が家庭へ広く知られていないことが原因と思われる。活動内容の発信をする機会を設けることが課題である。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・西中HP等を有効に活用し、発信に努める。</li> </ul>  |
|    |        |                                     | 保護者 | 27% | 43% | 4% | 2% | 23% | 3.2 | A    |       |  |  |
|    |        |                                     | 教職員 | 50% | 44% | 6% | 0% |     | 3.4 | A    |       |  |  |
| 7  | 組織運営   | 管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応。              | 保護者 | 29% | 43% | 8% | 2% | 18% | 3.2 | A    | A     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の8割以上、教職員の9割以上が肯定的な回答をしており、良好な結果であった。新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行になったが、学校行事等は適宜検討しながら適切に実施することができた。また、感染症対策については、組織的に対応し、感染拡大を最小限に抑えることができた。</li> <li>・学年部で常に意思疎通を図りながら、取り組んだり、生徒指導の問題発生時には管理職と生徒指導主事が適切に関わっていたことが高評価につながったと考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も管理職、学年主任が中心となって現状把握に努め、迅速かつ適切な対応をとっていく。</li> <li>・些細なことでも気軽に相談できる、風通しのよい学年部集団をつくることで、諸問題への対応力や解決力を高めていく。</li> </ul>         |
|    |        |                                     | 教職員 | 47% | 44% | 9% | 0% |     | 3.4 | A    |       |  |  |

# 令和5年度 評価アンケート集計と考察

※ 判定基準 【A:3.0以上 B:2.5以上3.0未満 C:2.5未満】

| 番号  | 評価領域       | 評価指標                                | 対象                               | 評価  |     |     |    |     | 判定  | 総合判定 | 考察と課題 | 改善策の案  |   |
|-----|------------|-------------------------------------|----------------------------------|-----|-----|-----|----|-----|-----|------|-------|--|---|
|     |            |                                     |                                  | 4   | 3   | 2   | 1  | 不明  |     |      |       |  | 平均  |
| 8   | 研修         | 生徒一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のための努力。 | 保護者                              | 25% | 53% | 9%  | 2% | 11% | 3.1 | A    | A     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間の「本時の流れ」を提示したり「話し合い活動のマニュアル」を全生徒に配付し、話し合い学習を積極的に取り入れたり、eライブラリやロイロノートを用いたりし、個に応じた学習を進めることができ、効果があった。</li> <li>・校内研究授業では、その後の研究協議の内容を整理し、全教職員へ発信した。</li> <li>・松山市の授業モデルを取り入れたことで各教科で授業の流れが統一され、生徒が学びやすくなったと考える。</li> <li>・各教科担当が、担当する学年の実態に応じて、今後の方向性について共通認識を図り、学年の課題に適した授業づくりを進めることができた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業や協議に多くの教員が参加できるように、時間割を調整したり、部活動の活動予定の確認する。</li> <li>・生徒に対して行っている教育実践や取組を保護者に発信する場面をもっと増やしていく。その際、生徒に身に付けさせたい力も含めて啓発する。</li> <li>・HPや学校だよりなどを中心として、各教育課題に向けた教育実践、身に付けさせたい力などを、生徒や保護者に発信するとともに、各学級でも、学校全体で共通して伝える事項として、話をする時間をとる。</li> </ul> |
|     |            |                                     | 教職員                              | 44% | 41% | 12% | 3% |     | 3.3 | A    |       |  |   |
| 9   | 保護者、地域との連携 | 教育活動の充実に向けての地域や保護者と連携・協力。           | 保護者                              | 35% | 50% | 9%  | 2% | 4%  | 3.2 | A    | A     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりもPTA役員やまちづくり協議会の方など、保護者や地域の方と連携をとる機会が増え、関係が緊密になっている場面が増えた。また、本校ならではの特色ある教育活動も実施できている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や保護者に協力を求めるのと同じ熱量で、私たち教職員もまた、地域に関心を持ち、地域を知ろうとする姿勢を持つ。</li> </ul>  |
|     |            |                                     | 教職員                              | 44% | 50% | 0%  | 6% |     | 3.3 | A    |       |  |   |
|     | 9          | 保護者、地域との連携、情報提供                     | 学校・学年だよりやホームページ、メール等による積極的な情報発信。 | 保護者 | 62% | 27% | 6% | 4%  | 0%  | 3.5  | A     | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPの更新頻度を上げたり、西中だよりをテトルで直接保護者へ配信することで、これまで生徒で止まってしまうことが多かった情報が保護者にちゃんと届くようになった。その結果、生徒たちの学校生活の様子や成果を伝えることができている。そのことが、アンケートの大変良好な結果につながったと考える。</li> <li>・一方で、紙で配付しなくなったため、生徒の目に留まるものがなくなった。</li> </ul>   |
| 教職員 |            |                                     |                                  | 85% | 15% | 0%  | 0% |     | 3.9 | A    |       |  |   |

# 令和5年度 評価アンケート集計と考察

※ 判定基準 【A:3.0以上 B:2.5以上3.0未満 C:2.5未満】

| 番号 | 評価領域   | 評価指標                                    | 対象  | 評価  |     |     |    |     |     | 判定 | 総合判定 | 考察と課題   | 改善策の案   |
|----|--------|---|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|----|------|---|---|
|    |        |   |     | 4   | 3   | 2   | 1  | 不明  | 平均  |    |      |   |   |
| 10 | 教育環境整備 | 言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備。                  | 保護者 | 32% | 51% | 6%  | 2% | 9%  | 3.3 | A  | A    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の写真を中心に生徒の一言を募集し掲示した。各クラスの活動や生徒の気持ちをできるだけ取り上げ、次の活動への意欲を喚起するように努めた。写真へのいたずらもない。生徒の学校生活が落ち着いている。ただ、掲示物のインク代をどう捻出していくかが課題である。</li> <li>・各学年で、工夫して効果的な掲示ができた。参観日や懇談で生徒とともに掲示に見入っている姿も見受けられた。また、委員会で作成した学級新聞や本の紹介等、生徒の手による掲示物、そして、人権集会、走ろう会などの掲示は、生徒の活発な活動を表した掲示となった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、委員会、生徒会などで作成したポスター類は年度を入れることで、掲示しっぱなしにならないようにする。また年度を越えて貼る予定のものは裏打ちするとか、ラミネートするなどして強度を上げる。</li> <li>・言語活動の充実の視点から言語を意識した掲示物も適度に掲示していく。例えば、時節に合った詩や生徒が作成した標語や俳句等も掲示する。</li> </ul> |
|    |        |   | 教職員 | 50% | 41% | 6%  | 3% |     | 3.4 | A  |      |   |   |
| 11 | 幼保小中連携 | 中1ギャップの解消、生徒の学校生活に対する不安感の軽減のための小学校との連携。 | 保護者 | 19% | 43% | 12% | 2% | 24% | 3   | A  | A    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・この結果から、保護者は中学校の学習や生活について、不安を感じているのでは考えられる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前にHPなどを利用し、中学校の生活についてより知ってもらう機会をつくる。また、体育大会や文化祭、参観日に、次年度入学予定の保護者・児童にも案内する。</li> </ul>   |
|    |        |   | 教職員 | 32% | 47% | 15% | 6% |     | 3.1 | A  |      |   |   |
|    | 幼保小中連携 | 教育の質の向上、小中間の系統性を重視した学習指導のための小学校との連携。    | 保護者 | 20% | 37% | 11% | 2% | 30% | 3.1 | A  | A    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に比べ教職員の評価の方がやや低い。小学校での学習内容や、ICT機器の活用頻度について把握しきれていないと考えられる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校での学習状況（内容、学習規律など）を把握することが必要である。小学校の教科書を活用して、教科部会で確認する。</li> </ul>  |
|    |        |   | 教職員 | 24% | 50% | 21% | 6% |     | 2.9 | B  |      |   |   |
|    | 幼保小中連携 | 生徒に対する教職員の理解や生徒の相互理解の促進のための小学校との連携。     | 保護者 | 22% | 38% | 11% | 1% | 28% | 3.1 | A  | A    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末、小学校との引継ぎについて行っているが、この結果から、保護者も教職員もきちんと引き継がれていないのではと不安を感じていると推察する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の小学校との引継ぎ以外にも、情報が必要な場合の体制（場面に応じて小学校の誰に中学校の誰が尋ねる。）を明確にして、日常的な連携に努める。</li> </ul>   |
|    |        |   | 教職員 | 29% | 50% | 18% | 3% |     | 3.1 | A  |      |   |   |

# 令和5年度 学校関係者評価委員会での意見

松山市立西中学校

## 1 教育課程・学習指導について

学校の考察と課題、改善策により推進するとよいが、次のことにも留意するとよい。

- ・タブレット活用を家庭で積極的に進める。
- ・不要なアプリをインストールできないようにする。
- ・全国学力検査や県学力調査の結果を生かした授業改善を一層進める。

## 2 人権・同和教育、生徒指導について

学校の考察と課題、改善策により推進するとよいが、次のことにも留意するとよい。

- ・いじめ問題は、生徒のスマートフォン所有率の増加やSNSの利用等により、その様相が変化してきている。SNSがからんだ場合、学校だけで解決が難しいと思われる。関係機関との連携を大切にしてほしい。

## 3 キャリア教育について

学校の考察と課題、改善策により推進するとよいが、次のことにも留意するとよい。

- ・2年生の職場体験の前段階として「出前授業」などを実施すれば、一連の学習が、生徒にとって価値のある学習になると考える。
- ・出前授業を実施するときには、保護者や地域を巻き込んだ教育活動にしていくとよい。そうすれば、保護者や地域にも子供の教育に携わる当事者意識が生まれる。

## 4 安全管理について

学校の考察と課題、改善策により推進するとよいが、次のことにも留意するとよい。

- ・特に自転車の乗り方について、自転車も軽車両で左側通行かつ一列でなければならぬことへの指導が必要。
- ・校区の通学路には多くの用水路がある。生徒の安全のためにあんきよにすることを要望してはどうか。
- ・建設工事がある場合、生徒が安全に登下校できるように状況を学校も把握してほしい。

## 5 保健管理について

学校の考察と課題、改善策により推進するとよい。

## 6 特別支援教育について

学校の考察と課題、改善策により推進するとよいが、次のことにも留意するとよい。

- ・障がいの程度に即した相談機関を上手に利用してほしい。

## 7 組織運営について

学校の考察と課題、改善策により推進するとよい。

## 8 研修について

学校の考察と課題、改善策により推進するとよい。

## 9 保護者、地域との連携、情報提供について

学校の考察と課題、改善策により推進するとよいが、次のことも改善策に加えるとよい。

- ・全ての保護者が、学校に関心があるわけではない。関心を持ち、関わってくれる方に焦点を当てた内容も発信していくとよい。
- ・学校だよりやHPをよく見てくれる保護者を味方にしていく発想で取り組むとよい。

## 10 教育環境整備について

学校の考察と課題、改善策により推進するとよい。

## 11 幼保小中連携について

学校の考察と課題、改善策により推進するとよい。

## 12 その他

○少し早めに到着し、校舎内を見ていると、ある生徒が「どちらに御用ですか？案内しましょうか？」と声をかけてくれた。とてもうれしかった。と同時に生徒たちが育っていると感心した。

○アンケートをとると耳の痛い、厳しい意見もあると思う。が、その意見は、西中をより良くするきっかけを作ってくれたと前向きに受け止め、教育の充実に取り組んでほしい。

○トイレに対するニーズや使い方(男子も小便器は使わず、洋式トイレの個室で用をたす等)が変わってきている。公衆トイレも今までのような造りではなくなっている。学校も、洋式トイレを増やしたり、清潔感のある内装にしたり、スペースを広くとる等の必要性を教育行政に訴え続けることが大切だ。

## <にっしーのストーリー>

五つの花弁で表している西中の校章「礼節・克己・創意・躍動・連帯」が背中についています。雨の日の校庭にできた水たまりに現れる引っ込み思案で優しい首長竜です。特別な力はないですが、短い手をパタパタし、出会った人を癒してくれます。

